

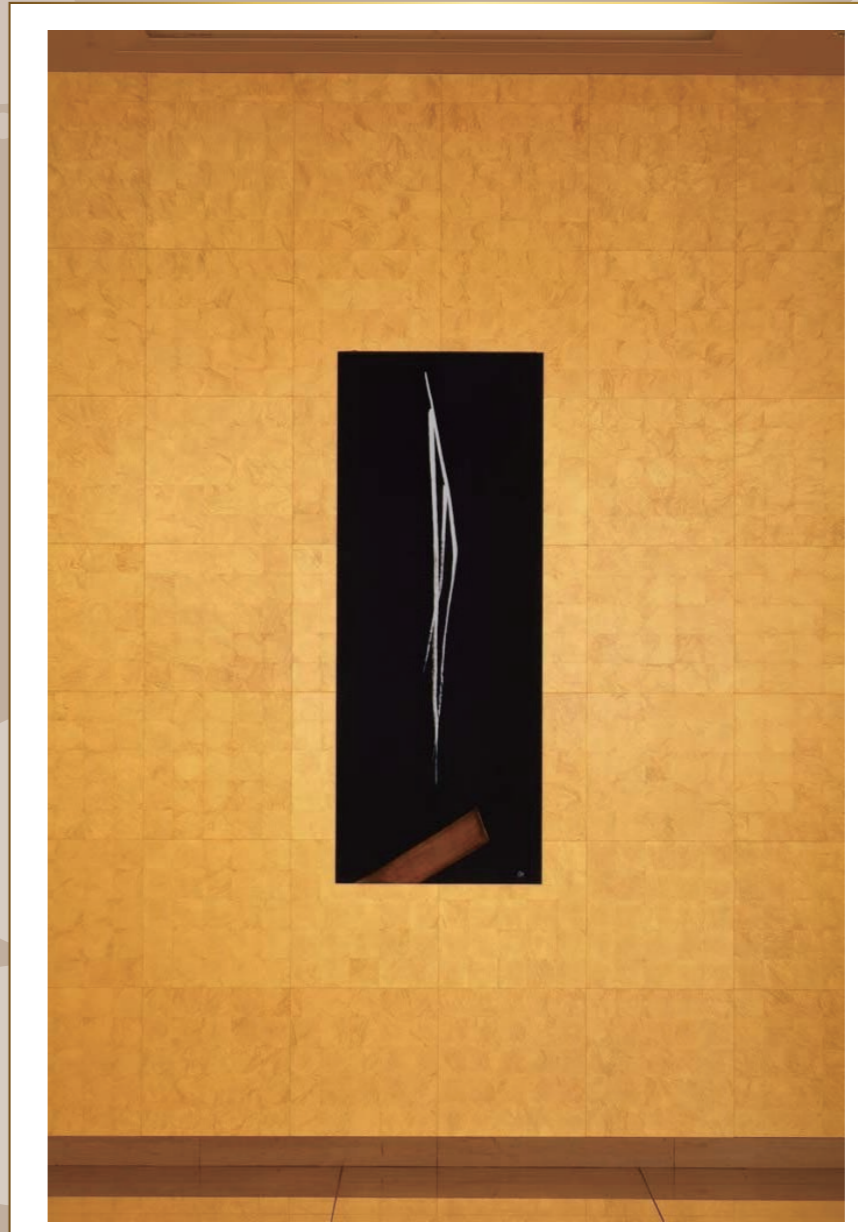
KKRホテル金沢

アートギャラリー



玄関ホール：篠田桃紅作 「遙韻（はるかなるしらべ）」

篠田氏のコンセプトは「ENCOUNTER」、言葉の意味は、遭遇、出会い。作者によれば、人と人との偶然の出会い 心の触れ合いと 無窮へのイメージ…。ここでは、キャンバスパネル仕立ての右のプラチナ箔と左の金箔とを、中央で出会わせるという大作に相応しい大胆な構成をとっている。この2つの素材をベースに彼女の力量と無間のイメージが展開されている。



エレベーターホール：篠田桃紅作 「遊目（ゆめ）」

この建築で最後に仕上がった作品。バックに加賀金箔の壁を用いたいと申し入れたところ、即座に紺をベースに銀泥と金で表現したいと…回答があった。ここでは金箔の華やかな壁の中には、凛々しく美しく掲げられている。美とは？夢とは？…を私たちに静かにかつ正確に語りかけてくる。



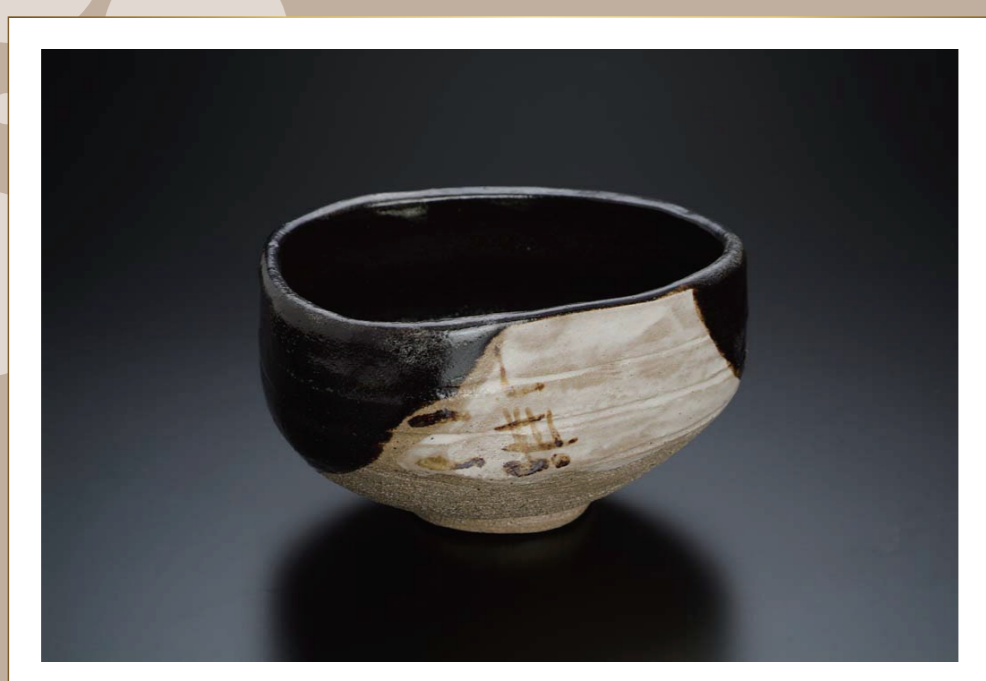
フロントカウンター：篠田桃紅作 「心（こころ）」

何かメッセージを…と お願いしたところ、ホテルなので、持てなず心が大事だから「こころ」ではどうか？と話があった。また ひら仮名は数多く発表しているのに、漢字で表現したいと申し入れがあった。KKRの別の読み方がこころということもあり、このホテルのフロントにふさわしい作品となっている。



紅梅亭：篠田桃紅作 「秘抄（ひめたことば）」

篠田桃紅氏に最初に依頼した作品はこの障壁のみであった。旧紅梅亭のイメージを何かで継承したいというのが、我々の考えであった。秘すれば花という言葉もありこの奥の金箔は、一番大事にしたい作品でもあった。この障壁を見つめると、周りの京さびの壁とも相俟って、無限の空間と人への無窮の思いが感じられる。



1Fエレベーター横 大樋長左衛門・篠田桃紅 合作 「抹茶碗」



3Fホワイエ 古田芳彩作 「加賀友禅」



5Fエレベーターホール：クリフトンカーフ作 「九谷焼 六角皿」